

社員や非人間 ID (NHI) のセキュリティ態勢管理「Okta ISPM」を全社導入 自社実践で得た知見を生かし、AI 時代のセキュリティ支援を加速

IT サービス業の J B C C ホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：東上 征司、以下 J B C C ホールディングス）は、ID 管理サービス大手の Okta が提供する、企業の ID セキュリティ態勢を継続的に可視化・管理するサービス「Okta Identity Security Posture Management（以下、Okta ISPM）」を、グループ全社の IT システムに導入しました。

これにより社員 ID の権限や利用状況を継続的に可視化する仕組みを構築し、ID を起点とするサイバー攻撃への防御態勢を強化しました。今後は AI やソフトウェアなど人間以外が持つ ID も含めて防御態勢を拡大すると同時に、セキュリティ事業を強みとする IT サービスラーとして、Okta ISPM を含む AI 時代に最適な最新のセキュリティソリューションを拡充します。

■ 背景：AI 時代の ID リスク

AI が業務に浸透する中、企業においては社員の ID に加えて「非人間アイデンティティ（NHI：Non-Human Identity）」と呼ばれる人間以外の ID が急増しています。NHI とは、ソフトウェアやシステムが持つデジタル ID の総称で、AI エージェントや自動処理プログラムそのもの、またそれらが他のサービスにアクセスする際に使う許可証（API キーやアクセストークンなど）を指します。

AI 活用が業務現場で進めば NHI が膨れ上がり、管理者が即時に全リスクを把握することが困難になります。NHI は自律的に動くことを前提に発行されるため、アクセス権限が過大に付与されやすい一方、人に紐づかないため退職や異動に伴う削除などの管理も行き届きづらく、有効なまま放置される「休眠 ID」が生まれやすい状況にもあります。

これら NHI は、攻撃者にとって格好の侵入口となっており、実際に NHI の侵害に起因するサイバー攻撃を経験した企業は 66%にのぼるという調査結果*も存在します。AI 時代において、NHI を含む ID 管理の徹底は企業にとって喫緊の課題となっています。

*出所：AppViewX/Enterprise Strategy Group「Managing Non-human Identities for an Effective Cybersecurity Program」（北米企業 367 人の担当者を対象とした 2024 年調査）

■ 狙い：全社導入の実践知を顧客支援に活かす

J B C C グループはセキュリティサービスを事業の柱の一つとし、ゼロトラストセキュリティ*の実現など、ビジネス環境の変化に対応した最適なセキュリティ対策を顧客に提供してきました。

*ゼロトラスト：クラウド利用やテレワークの普及など IT 活用の変化を踏まえ、社内外のネットワークやデバイスの全てに脅威が潜んでいることを前提にしたセキュリティの考え方

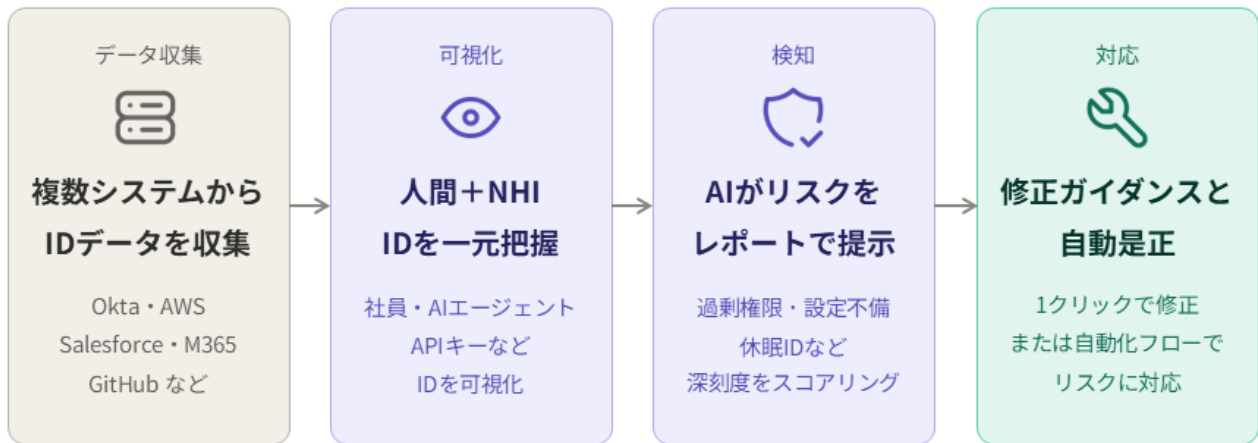
また J B C C グループでは現在、社員約 2,000 人に加え、業務効率化のために構築した AI エージェント約 1,800 体が稼働するなど、その数は社員数に迫る規模にあります。J B C C グループは、Okta ISPM をまず社内に導入し、社員 ID のほか NHI へも対象を広げながら、複数システムに分散していたすべての ID を一元的に可視化し、リスクを早期発見・是正する体制を強化していきます。この可視化・是正のプロセスで得た実践的な知見をもとに、顧客の IT 環境や業務体制に合わせたリスク低減を最短で実現していきます。

■ Okta ISPM の特長

Okta ISPM は、社内の複数システムに存在する人間・NHI 双方のすべての ID の権限や利用状況を横断的に可視化し、不正アクセスが起きる前にリスクを検知するサービスです。AI がリスクを自動で特定・分類し、深刻度に応じた対応の優先順位付けを行います。

過剰な権限を持つ ID、長期間使われていない休眠 IDなどを自動で検出し、セキュリティ担当者に対応の優先度と推奨される対処策をレポートで提示します。担当者はレポートに従って修正対応するか、あらかじめ設定したルールに基づく自動修正を適用することで、迅速にリスクを低減することができます。

人間・NHI双方のIDを可視化しリスクを一元管理



■ 今後の展望

J B C Cグループは、企業が継続的にAIを活用するための機能群を備えたAI活用基盤「AI Orchestration Platform (AIOP)」の構築を進めています。セキュリティはAIOPを構成する重要なソリューションの一つと位置づけており、Okta ISPMなどの最新技術をいち早く取り入れながらAIOPの機能群の強化と顧客のAX支援に取り組んでいきます。

■ Okta Japan 株式会社様からのエンドースメント

代表取締役社長 渡邊 崇 氏

J B C C様による『Okta ISPM』の全社導入を心より歓迎いたします。AI エージェントが業務の重要な担い手となるこれからの時代において、アイデンティティ管理は人間のみならずシステムやAIにも拡張されなければなりません。自ら大規模なAI活用を実践されるJ B C C様が、最新のアイデンティティセキュリティ態勢管理を自社にいち早く取り入れられたことは、業界を牽引する素晴らしい取り組みです。今後、両社でお客様の安全でスピーディなAI活用の実現に貢献できることを楽しみにしております。

■ J B C Cホールディングスについて <https://www.jbcchd.co.jp/>

J B C Cホールディングスは、お客様のDX・AXを実現するITサービス企業。マルチクラウド環境に対応したクラウド・セキュリティサービスと、基幹システムの超高速開発を特長としています。AIを前提としたサービスモデルのもと、最新のテクノロジーを活用し、お客様の変革を構想から実装、現場定着まで一貫して伴走します。

<本件に関するお問い合わせ>

J B C Cホールディングス株式会社 広報 長谷川/加藤

Tel:03-6262-3233 E-mail: jb_info@jbcc.co.jp